

第23回 国土交通中部地方有識者懇談会

【まんなか懇談会】

－詳細議事録－



日時：平成26年9月5日（金）10:00～12:00

場所：KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

局長あいさつ

(八鍬局長)

- ・ 先日、最重要課題の一つに地域創世を掲げ第二次安倍改造内閣が発足した。さらに、まち・ひと・しごと創生本部も設置され、2020年の達成目標を定めた総合戦略を年内に策定し、その後、地方版の総合戦略を策定する予定である。また、国土交通省においても、今年の7月に公表された新たな国土のグランドデザイン2050を具体化するために国土形成計画の全国計画を今後策定すると共にそれと並行し、広域地方計画においても検討をスタートする。
- ・ 国土、地域の在り方についての計画づくりが本格化する中で、本懇談会で議論している新まんなかビジョンは中部圏において広域地方計画を策定する上で大きな指標となる。
- ・ 中部圏においても人口減少、高齢化、インフラ老朽化に加え、防災といった課題に加え、リニア中央新幹線開業など中部圏の今後に大きな影響を与えるプロジェクトが進行している。新まんなかビジョンにおいてはこのような課題に的確に対応し、チャンスは最大限に活かし、中部が日本を先導する成長センターとして活躍するために、将来の中部圏はどうあるべきか、またその実現のための地域づくりはどうあるべきかをこのビジョンの中で方向性を示していく。
- ・ 今回は、過去3回の議論を踏まえ、骨子を取りまとめた。本日はその骨子について忌憚のない意見を頂戴したい。
- ・ 本日、ビジョン全体の方向性を決めさせていただき、もう一度懇談会を開催させていただき、報告書を取りまとめたい。皆様には今後ともご協力をお願いする。

(須田座長)

- ・ 新しいまんなかビジョンをまとめる上で、本日は重大な節目になる会議であると認識している。
- ・ 現在、国の方で様々な計画が策定されているが、どこにどのような内容があるのかがつかみにくい。まんなかビジョンでは、およそ全体としてのまとまりを持たせたい。そのような意味合いで、本日は皆様からのご意見を幅広く拝聴し、次の懇談会でまとめていきたい。皆さんからのご意見、ご指導等、よろしくをお願いしたい。

I. 各種地方計画の動きと新まんなかかビジョン（基本理念）の位置づけ

(事務局)

- ・ 資料確認
- ・ 資料1 説明

(須田座長)

- ・ 先ほどの説明に関してご意見ご質問ありましたら、お願いいたします。

(林委員)

- ・ 今のご説明の中に、評価の話を入れなければならない。現在、個々のインフラの事業評価はそれぞれ異なった手法で行われているが、それらを積み上げたときに、全体として機能するのは全く不明である。そういった意味で、人々の生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）がどのように向上するのかということ前提とし、それをブレークダウンした形で、整合のとれた評価を行うべきである。これは日本のプランニングのシステムの大欠点であり、ドイツのように必ず生活の質等と評価が連動している必要がある。

(須田座長)

- ・ 先ほどのお話に関連して、観光の分野においても統計データが乏しいと感じる。評価を行うためにもデータが必要であることから、統計の整理が必要であると感じる。

II. 新まんなかビジョン（基本理念）－骨子案－

(事務局)

- ・ 資料 2 説明

(須田座長)

- ・ 先ほどの内容について、皆様にご意見を伺い、その後、皆様に討議を行っていただきたい。
- ・ 皆様からご意見を頂戴するが、奥野委員は国土審議会会長であり、国土のグランドデザインをはじめとする様々な計画の策定に携わっている。そこで、まず奥野委員にご意見をいただき、今回どのようなことを念頭に置いて議論すべきかをご教授願いたい。

(奥野委員)

- ・ 資料はよくできていると感じる。
- ・ 愛知県、名古屋市、岐阜県、静岡県がモデル地域として選出された国土強靱化計画、まち・ひと・しごと創生本部の動きなど、形成計画の見直しを行う上で、これまで策定された様々な計画やそれに伴う動きを踏まえなければならないことが制約となる。
- ・ 太平洋側と日本海側の広域連携は国交省において基本的な理念の一つであった。そしてそのモデルとされている典型的なケースが、東海と北陸の連携である。現状、北陸は新幹線一色であるが、リニアが開通すれば福井近辺からの東西への移動は、北陸新幹線を利用するより、名古屋からリニアを利用した方が近くなるものと思われる。このように、リニア開業後は名古屋と北陸との結びつきは強くなると思われるが、そのような意識は北陸において現状薄いと感じる。今後、東海と北陸との連携体制をどの

ようにつくるのかを考える必要がある。

- ・ 都市連携は重要であるが、自治体においては、行政の広域連合の話になってしまう。しかしそうではなく、二つの都市が市民の感覚として一体となるような連携が重要になってくるものと思う。
- ・ 次に、担い手の確保について、もともと国土交通省では、多様な主体の参加として掲げていた。その後、国土形成計画で新たな公と命名し、事業を推進してきた。内閣府では共生社会として議論され、成長戦略の要の一つとして重要な位置づけとなっている。多様な主体の参加、新たな公、共生社会はいずれも内容的には同じものであり、その全てに担い手確保が関連している。国土のグランドデザインには強く出ていないが、行政・企業の担い手確保も形成計画見直しの上で重要になるものと思う。

(須田座長)

- ・ 先ほどの奥野委員のお話を参考に議論を進めていきたい。
- ・ この地域が計画のモデル地域となっているという話があり、注目されている。したがって全国的な視野に立った議論をすべきであると感じる。
- ・ 北陸と東海地方との連携が大きな課題となってくる。しかし本委員会には北陸の方がいないので、事務局で北陸の方のご意見を聞いていただき、委員の皆様には北陸を念頭に置きながら議論を進めていただきたい。
- ・ 出来れば2回、全員にご発言をお願いしたいため、お一人5分程度のご意見を頂戴したい。

(東委員)

- ・ 我々が進めてきた計画がまとまってきている。
- ・ 資料2-2ではネットワークという記述があるが、ネットワークというものをどう捉えるかが重要である。道路や鉄道の社会インフラの整備はもちろんであるが、人と人を繋ぐという観点も大きい。そのようなことから、人材の育成が非常に重要になってくるものと思う。
- ・ 本日お示しいただいた中部の9地域の目指すべき方向は示されているが、どのようにこれらを繋いでいくのか、各市町でどのようなことをすればよいのかが実現に向けての手がかりになってくるものと思う。少し具体的に国民の暮らしの豊かさを実現するという目的を持つとすれば、それを繋ぐという人、人材の育成が不可欠となる。
- ・ また、IT技術も繋ぐという大きな手段になるので、まんなかビジョンに具体的に盛り込んでどうか。
- ・ 資料2-2で環境景観と一緒に記述すべきではなく、環境・景観というように記述していただきたい。また三河湾の閉鎖水域の改善は重要であるが、景観法も公布から十年経過し「基準」から「マネジメント」に変わっている。今後の観光という観点からしても自然環境・歴史文化を活かした中部の景観形成は重要な、魅力的な観光資源になり得ると確信している。これらを地域ごとにいかに活用、反映するのかによって地域の再生がかなうのではないかと考える。地域資源・地域景観の創出を踏まえ、小さな町に光を当ててくれるような表現にしていただければ幸いである。

- ・ 4 章では、ものづくりに触れているが、ものづくりは中部の非常に大きな強みであり、これが中部の精神文化を形成していると認識している。そこで、ものづくりを精神的文化性の視点も踏まえて記述していただきたい。
- ・ 4 章では国内外との交流連携の舞台と記述しているが、交流連携で生まれるものは文化であると考えている。そこで交流連携による文化創造の舞台という記述も検討していただきたい。
- ・ 9 地域の目指す方向を実現するための具体的な施策、方針を記述していただき、特に今後は、産学官民が共通のビジョンを持って中部の施策に取り組んでいけるのではないかな。
- ・ スーパー・メガリージョンの中に、大学・研究所の記載がない。産学官民が連携して今まで以上に協力・連携のもと、総力を挙げて中部の地域をつくっていくことが必要となるので、そのような記述を盛り込むべきであると考えている。

(水尾委員)

- ・ もっと地域色を出し、中部が日本全体を牽引していくという力強さ・とげがあってもよいのではないかという印象を受けた。
- ・ 今後の開発については、危険性により配慮した適正な土地利用を行うということを押し出してもよいのではないかな。
- ・ コンパクトシティとして、公共交通機関の利用を掲げているが、地方ではバス路線の廃線が続くなど住みづらい状況が続いている。そのような背景で、コンパクト化や強靱なまちづくりというものはどのようなものなのか、今後はどうしていくのかをより明確に示してもよいと考える。
- ・ スーパー・メガリージョンに関して、リニアが開業し超高速社会が実現することは将来の明るい希望である。しかし、その中で中部国際空港がどのように発展していくのかを考えた時、愛知には中部国際空港と愛知県営空港という既存の二つの空港がある。これらは、羽田空港と成田空港のような関係にはなり得ないが、二つの空港の位置づけを首都圏との関係の中で考えていかなければならない。
- ・ 当地域はものづくりが基本であるから、労働力の確保が重要となってくるが、外国人労働力に頼ることを打ち出すのではなく、女性・高齢者・ロボットを積極的に労働力として活用していくという視点があってもよいと考える。
- ・ 観光に関しては、当地域の観光が活性化し、北陸との連携によって多くの人々が周遊してくれることが望まれる。しかし、ユネスコの世界遺産の登録が観光資源のブランド価値を向上させるという考え方からは脱却すべきであると思う。我々日本人が認める独自の指標で観光資源としての価値を高める新たなブランドをこの地域から発信していったらどうか。

(須田座長)

- ・ 日本では世界遺産になったから偉いとされ、偉いから世界遺産になったという認識が薄いように思う。

(水谷委員)

- ・ よくまとまっていると思うし、今後やらなければならないことは、記載されたことと概ね一致していると思う。しかし将来、日本の経済状態は非常に苦しいものになると思う。したがって本当にやるべきことを絞らなければならないと感じる。
- ・ 国としてやるべきことの基本はインフラの整備であると思う。ネットワーク整備とは何かを考えると、それは鉄道と道路整備であると思う。しかし、既存の社会資本を維持していくのも将来的には難しくなる。したがって社会インフラが維持できないほど経済的に逼迫するという状況を考えなければならない。そこで、インフラ整備においても基幹の箇所に絞り、将来の国民の負担にならないよう、整備については早急に行う必要がある。リニア等の新しいものだけでなく、こういった地道なものも重要である。
- ・ 日本のものづくり産業は徐々に衰えており、この状況は今後も続くものと考えている。ものづくりが停滞すれば、他の先進国と同様、経済的な疲弊が始まる。電子機器の例をとると、海外で製造し日本で消費するといったように我が国も生産地から消費地となってきた。ものづくり産業をどのように維持するかということは民間の問題であるが、国は民間をお手伝いする立場にあり、その役割はインフラ整備であると思う。
- ・ また、少子高齢化が今後進行し、増加した高齢者の介護を若者が負担すると、ものづくりの人材の確保は一層困難になる。高齢化が進行すると社会の存続は不可能となり、限界社会はすでに実現してきていると言える。この場で議論すべきことではないと思うが、そのような限界社会の中で地域や家族はどうするのかという観点を踏まえ、国として本当にやるべきことを我々も考えて、絞り込まなければならない。

(後藤委員)

- ・ 素晴らしくまとめられた計画であると思う。
- ・ 水谷委員のご意見にあったように、現実の日本はそれだけの経済力を持てるのかが不安視される場所である。ものづくりの優位性も失われつつあると思う。そこで、優先順位の付け方と財政のバランスを考える必要がある。
- ・ まち・ひと・しごと創生本部による地方創生の考えは素晴らしいと思うが、ひとを先に持ってくるべきであると思う。なぜなら、物質的に恵まれ爛熟した社会ではあるものの、どこかに精神的なものを忘れてきたのではないかと感じるからである。
- ・ 今の日本に必要なものは、将来に対する希望・満足感・充実感、人間性の尊重なのではないかと考えている。人間性の尊重、芸術・スポーツをベースとした精神的な充足感を尊重するような地域づくりをまんなか懇談会でも考えていく必要があると思う。その際、産業・文化・芸術面で見直しをするべきではないかと思う。徳川時代の幕藩体制においては、地理、気候風土の異なる多様な地域が活性化していた。言葉、食文化、人の交流の違いは今なお中部圏においても残されている、このような切り口で見直すことがひとつのポイントになるのではないかと思う。
- ・ また、小さな子どもに文化力や郷土への愛着を醸成する必要がある。静岡は現在、静岡県、静岡市、浜松市、岡崎市を結び徳川家康公顕彰四百年祭の準備をしている。こ

れに関連して徳川時代の見直しの中で、学ぶべき事例やネットワークがあり、四百年祭を切り口にして地域の見直しをしていく必要があるのではないかと考えている。特に、中部地区は三英傑を輩出した土地であり、歴史に学ぶべきところは学ぶ必要がある。

- ・ 静岡では健康長寿日本一も標榜している。高齢化の問題において防災や医療体制等の取り組みも行うべきだが、基本となるのは健康長寿であると考えているので、静岡の取り組みを参考にしてほしい。

(中村委員)

- ・ 少子高齢化が加速し、現在1億2,800万人の日本の人口は、2050年には9,500万人、2060年には8,000万人となると予測されている。一方、首都圏の人口は3,500万人、関西圏は2,500万人、東海圏は1,500万で三極集中型となっている。九州は福岡に、北海道は札幌に人口が集中している。このように地方は人口が減少し、都心部では増加しているが、適疎適密という言葉のもとにバランスをどうするかを考えなければならない。
- ・ 復興支援に関する建設業をはじめ、土木、流通、医療、福祉の分野で労働力の不足が起こっている。日本政府はフィリピンやインドネシア等の東南アジアから看護師や介護士の雇用を試みたものの、語学等の問題により受験者の15%しか採用されなかった。インバウンドも重要であるが、外国人が日本に來れば消費人口の拡大に繋がり、また、日本での経験を積んだ外国人が母国に帰ればODA以上の価値になると言われているので、そのような観点を取り入れるべきではないか。
- ・ 三重県では昨年、伊勢神宮の第62回式年遷宮で1,420万人という観光客が來られた。三重県の取り組みとしては、次の遷宮までの空白を埋めるため、伊勢市で3年後に全国の和菓子を集めた博覧会の開催が決定し、大きな波及効果が見込まれる。次に、海外にも目を向け、東海地方で世界中のケーキを集めたオリンピックの提案をしているところである。
- ・ 中部は自動車、航空、ロボット産業だけでなく、第一次産業も忘れてはならない。伊勢湾、三河湾、遠州灘、熊野灘があり水産資源が豊富である。また濃尾平野を中心として農産資源も豊富であり、自給率が50%を下回る我が国では地元での生産が重要となる。特に、日本茶に関しては、静岡、三重が高いシェアを誇り、これらを日本食ブームと共に海外にアピールすることも有効であると考えている。
- ・ また、自動車、航空機、工作機械、ロボット等様々な面での連携も重要であると思う。これに対して、いかに労働力を分配して不足を補うかということについて、外国人労働者の活用も検討すべきではないかと思う。

(林委員)

- ・ 今回の新まんなかビジョンでは目的、目標という項目が欠けている。時間がないので一言で言うと「限界社会で心豊かに生きる」が目的になるのではないかと思い、これを中部圏で掲げてはどうか。
- ・ もう少し具体的に行う目標としては「資源制約下での国土空間・インフラの維持整備」

であると思う。今のインフラの維持整備は資源制約を考慮しておらず、事業評価においても同様である。

- ・ もう少しブレークダウンして三つの小目標を示すと、まず一つは田舎と都市の関係が相容れないという議論があったのでそこに「地方への人口環流」、次に羽田ではなくセントレアを使うように「首都圏と中部圏の逆流」、最後に、日本のものづくり、歴史文化、観光等の価値を発展途上国等の諸外国と共有できるよう「歴史文化技術価値の国際共有中心」これらを掲げてはどうか。
- ・ 最後に、「スーパー・メガリージョン」ではなく、「アドバンスドスーパー・メガリージョン」として掲げてほしい。スーパー・メガリージョンは現在既に中国で上海～南京間等で実現されつつある。ドイツでは地方に住み高いクオリティ・オブ・ライフを維持しながら、広域アクセスが可能な国土形成をアウトバーンで実現した。日本はこれを鉄道を基軸として実現することとなり、この新しい価値は輸出も可能である。
- ・ また、「コンパクト+ネットワーク」とあるが、ネットワークだけでは目的が不明確なので、「コンパクト+コネクティッド」としてはどうか。これは日本語で言うと「凝集と連携」となるが、凝集のためには街区ストックの形成が必要になる。凝集・連携が完了すれば共助が可能となり、最後にクオリティ・オブ・ライフの維持ができる。このようなつながりで記述してはどうか。

(日置委員)

- ・ P 7 のエリアの考え方について、東海と北陸を結ぶ地域、長野と飛騨奥美濃北陸沿岸を結ぶ地域とあるが、連携先の地域までを含んだゾーンとなっているのか。あるいは連携先は含まず、中部圏だけで完結したゾーンとなっているのか。
- ・ もしも、連携先の地域まで含むのならば、東海と北陸の連携については能登半島あたりまで伸びたゾーン、北陸沿岸との連携ならば、中部縦貫道を軸とし福井から発したゾーンというように記述をお願いします。
- ・ P 8 の南海トラフ大地震・大規模災害の備えという項目があるが、河川に対する風水害の強靱化を考えた場合に、森林や農地の国土管理が重要な要素となってくるものと考えるので、これに関する記述をお願いします。
- ・ 今回の日本創成会議の消滅可能性都市論を一つの警鐘として受け止めるべきである。これに関して P 9 で濃密で重層的な対流をもたらす地域づくりで、それに対する処方箋として、中山間地域における小さな拠点のネットワーク形成を強調していただいているので、その点はありがたい。
- ・ 今回の地方創生がまち・ひと・しごと創生本部となっているが、我々からすると、まち・むら・ひと・しごと創生本部であってほしい。896市町村とりわけ1万人未満の町村は消滅しても仕方がないのでなく、今の市町村単位でも将来にわたって消滅しないような営みと活動を継続していけるような国土像を描いていきたい。

(須田座長)

- ・ 中部から見た北陸についての内容は記載されているが、事務局は北陸の立場をこの中にどれくらい反映していくべきと考えているのか。

(事務局)

- このような議論をする場合は、外の地域だという考えではなく、あくまで内部の地域であるという考え方で取り組んでいるつもりであるし、今後もその考えで取り組もうと考えている。

(須田座長)

- 是非ともそうしていただきたいと思う。やはりまんなかといった以上は北陸も同じように考える必要がある。
- オリンピック・パラリンピックの開催は当地域には大変な危機となる。しかし開催が決まった以上、どうすれば当地域に役立つのかという観点でオリンピック・パラリンピックの議論をこの中で展開していただきたい。何もしなければ、開催期間中は全国の観光客はTVを見ているので動かず、訪日外国人も東京近郊しか行かないので全て東京に集中する。オリンピック・パラリンピックをきっかけとして日本を再認識してもらい、大勢の人が全国にまんべんなく来てもらうようにしないと意味がない。
- 三英傑という記述があるが、これはやめたほうがよい。3人を近代的ヒトラーという人もおり、北陸でも織田信長と豊臣秀吉に関してはよい印象を持ってない人がいる。また韓国では豊臣秀吉は悪い印象を持たれている。歴史文化を学ぶことは重要であるが、英傑という表現は避け三武将という表現に改めてはどうか。
- この地域で強調しなければならないのは、色々な拠点が分散していることである。それらがコンパクトでないことが問題であるが、コンパクトにまとめた時、それぞれの街が役割分担をしてこの地域の価値を高める必要がある。したがって役割分担について記述する必要がある。役割分担ができれば過密無き集積が実現し、交流の面でも大きな効果が期待できると考える。

(奥野委員)

- 国土計画の基本理念は交流連携であると思う。全総はハードが中心であり、四全総あたりから多様な主体が参加して国地域をつくるという内容が盛り込まれた。交流連携が生み出すダイナミズムや人のつながりの再構築とっているが、同様のことを言っているイメージである。
- 強靱化の話で、内閣官房は5千年や1万年に一回の大規模災害にも堪えるようにと議論をしている。しかし、そうすると日本国中を要塞化するようなものになる。そうではなく、それが日々の暮らし、産業の活性化や都市の競争力に役立つようにする。かつ大災害が来ても業務の継続・すみやかな復旧ができるようなものをつくろうと提案している。
- しかし中部が機能しなくなれば東西分断が生じてしまうため名古屋駅に関しては要塞化する必要がある。
- 国交省は鉄道、道路も中央道まで含めれば4層化して非常に強靱なものを造ろうとしている。これは非常にいいことであると思う。しかし名古屋駅に交通モードが集中し過ぎており、リスク分散のため、高速道路に関しては別のルートを考える必要がある。

- ・ 人口減少の議論に関しても、最近明らかに変化しているものと思う。どのような人口水準が望ましく安定的にその水準に推移できるのかも含め、どこに収斂させるのか、そのために何をすべきなのかという雰囲気になってきていると感じる。国交省の都市圏再構築の戦略検討委員会でも、子供が生まれる街をつくるための三世帯同居近居という方針が出されている。このモデル地域となるのは出生率も高く三世帯同居率も高い西三河であると思う。
- ・ 人口減少も国土のグランドデザイン 2050 で議論したが、今後、出生率は上昇していくものと思う。デンマークは 1980 年代初めに出生率がおよそ 1.3 まで下がり、その後 1995 年あたりに約 1.8 まで急速に上がった。日本においても、母数が減っているため人口が増えることはないと感じるが、出生率は今後 10 年の間に上がってくるものと思う。集落は消滅すると思うが、街が無くなるということは考えにくい。ただそれを活性化していくにはどうすればよいのかを考え、国交省がコンパクト+α を提唱し、今後もさらに具体的に施策を推進しようとしている。
- ・ 対流型国土については、今、人が動かなくなっている。東京への人口集中は、よく見ると、人口の流入は減っているが流出も減っているため、増えているように見える。また、地域間の居住地の移動もしなくなった。さらに人の階層間についても、子供の貧困が非常に大きな問題になり、家庭が裕福でないと受験教室には勝てないと言われる他、様々な分野で階級間の移動も減っている。このようなことまで意識したのが対流という言葉である。

(水尾委員)

- ・ かつて、まんなかの委員の中にも、北陸の方に入っていたかなければならないという話が出たが、それはまだ実現できていない。石川、福井、富山の北陸三県は一括りにはできない。そこで北陸の中でも県に沿ったことも考え、我々が北陸にとって何ができるのか、北陸の人にとって何が幸せなのかをきめ細やかに考えてはどうか。

(須田座長)

- ・ 我々の観光分野の会議でも北陸の方を入れるのは難しいが、その場合、オブザーバーとして北陸の方に参加してもらうようにしている。オブザーバーという立場上あまり発言はしないが、その議論について後であまり反対されるということは少なくなる。そういう意味でオブザーバーとして参加していただくことは非常に意味がある。
- ・ 北陸にも整備局・運輸局があるので、相談などをして北陸の方が見ても違和感がないようにする必要がある。

(後藤委員)

- ・ 竹中内閣の時のふるさと創生のためのばらまきについて、批判は多かったが、各地を回ると、あのお金で公民館、博物館等を設立した話を聞く。たしかに問題点はあると思うが、地元の人たちが自分の地域で何を優先し、どのように実現するのかを議論したり考えたりしたことは非常に意味があったと思う。
- ・ 今回の地方創世でもあれと同じやり方がいいとは言わないが、地元の人たちが自分た

ガリージョン」という提案が出た。これは、ヨーロッパのスーパー・メガリージョンは道路が中心となっているが、日本は全く新しい鉄道が非常に大きな役割を果たしている。そのような考えから「アドバンスドスーパー・メガリージョン」がふさわしいという意見が出た。次に、スーパー・メガリージョンによって人口の流れを変えてくというようにすることも大きなポイントになると思う。また、当地域にある二つの空港をスーパー・メガリージョンの中でどのように位置づけていくのが重要である。

- ・ 全体に通じて言えることは、人、人口の問題について非常に多くご意見が出て、適疎適密を考えるとという意見があり、非常に重要なことであると思う。交流のあり方、どのように誘導するのかということも重要である。さらに、地域創生に最も大事なことは人を大切にすることから「まちむらひとしごと」ではないかという議論もあり、人づくりという問題が地域計画の重要なポイントになってくるのではないかと議論がなされた。
- ・ 先般、人口減少についてのショッキングな発表があったが、あれは何も施策をとらなければ陥る状況であり、施策をとることを促進するために敢えてあのようなセンセーショナルな表現を用いたと聞いた。しかし、それを勘違いし、移住しようとしている方もいるそうである。少し説明が足らなかったのではないかと思います、今後やるべきことを含めた形で人口問題を取り上げてほしかった。このビジョンにおいても、これから何をすべきか、何をすればいいものになるのかを強調していただくことが望ましいと思っている。
- ・ 本日もみなさまからいただいた意見を事務局で取りまとめ、適宜個別にご意見を伺うなどして、よい案をお作りいただき、ご提案ねがいたい。

Ⅲ その他

(事務局)

- ・ 本日いただいた意見を踏まえて、案を整理し次回の懇談会にてとりまとめ、公表という流れになる。今後、その案をベースとし各種地方計画に繋がる形でまとめていきたい。次回の懇談会は10月7日の15時からこの場での開催を考えている。引き続きご協力をお願いします。

(須田座長)

- ・ 今後のスケジュールやまとめ方についてご質問、ご意見ある方はいらっしゃいますか。

意見・質問なし

(須田座長)

- ・ 本日の皆様の意見を整理し、次回取りまとめていただくことになるので、よろしくお願いする。

(事務局)

- ・ 本日は貴重なご意見ありがとうございました。本日の議事については、整備局と運輸局

のHPでご紹介していきたいと思っている。

(野俣局長)

- ・ 本日は大変貴重なご意見をありがとうございました。まんなかビジョンは20年後30年後の中部が安心安全で活力あるよりよい地域であるための指針である。私どもとしても、この基本理念に基づき一丸となって取り組んでいこうと考えている。
- ・ 本日頂戴いたしましたご意見を踏まえ、新まんなかビジョン基本理念をとりまとめていきたいと考えているので、委員の皆様のご協力を今後ともお願いする。

閉会

以上